

## スーパーアスリート推薦選抜 解答例

令和5年度

### 小論文

#### 問1.

「監督が怒ってはいけない大会」が開催されるようになった背景としては、2012年12月に起きた顧問教諭からの度重なる暴力により、大阪桜宮高校の男子バスケットボール部主将が自死するという傷ましい事件があった。これを契機に、日本スポーツ界に蔓延る指導者の暴力や暴言をなくしていこうとする新たな取り組みが開始され、そのためには、まず小学生段階の試合から指導者の暴言をなくすことを目指し、益子さんが「監督が怒ってはいけない大会」を開催するようになった。バレーボールに限らずスポーツ場面では、従来から、そして現在でも指導者の暴力や暴言が問題となっており、それが原因で多くの若年プレーヤーがそのスポーツ種目から離れてしまい、競技人口の減少を招いていた。「監督が怒ってはいけない大会」では、指導者の暴言の発端とも言える些細なミスへの叱責を禁じながら、まずは子どもたちにバレーボールを楽しんでもらい、興味を持続させながら末永くプレーしてもらうことを大きなねらいとしている。

#### 問2.

小学生の柔道大会では、従来から行き過ぎた勝利至上主義がまん延し、子どもに過度な減量を強いるなどの問題が発生していた。柔道界に限らず、日本スポーツ界においては、国際舞台で活躍する一部のスポーツ・エリート強化が最優先され、そのためには子どもの頃からある一つに種目に専念させ、早い時期から結果を出し、スポーツ・エリートを発掘、強化していくことが目指されてきた。だが、その結果、子どもたちの発育発達段階を無視した過度なトレーニングが課されたことにより、心身ともに疲弊し、大人になる前に競技から離脱せざるを得ないプレーヤーが見られるようになった。また、たとえ小学生の時に勝利者になったとしても、その過程における過酷さからバーンアウトしてしまう事例も問題となっていた。最も大きな問題は、若年層の競技人口が減少し続けていることである。全日本柔道連盟は、他のスポーツ団体に先駆けて小学生の全国大会を廃止し、試合以外の柔道の魅力を模索しながら発信していく取り組みを始めた。つまり、子どもたちに柔道の魅力や楽しさを伝えていくことを大きなねらいとしている。